

図書館だより

応援してます！
平清盛

NO. 170 2012年6月号
(2012年6月1日発行)

はつかいち市民図書館
電話(0829)20-0333
廿日市市下平良 1-11-1

ホームページ <http://www.hiroshima-hatsukaichi-lib.jp/>



はつかいち市民図書館では、毎月テーマを変えて、そのテーマに関連する資料を集めて展示を行っています。

図書館の本は内容ごとに分類されていますが、一つの分野の棚から丸ごと展示する資料を集めてくるのではなく、さまざまな視点からそのテーマに沿った資料を集めるように心がけています。また、幅の広い情報を提供できるよう、展示の内容によっては関係する機関に展示の協力をお願いすることもあります。

毎月展示を行うことによって、新しい話題を提供するだけではなく、普段見かけなかった資料との出会いの場となるよう、今後も努力していきたいと思っています。今月も魅力的な資料をたくさん用意しましたので、ぜひ展示コーナーに足を運んでみてください。

《中央展示》

『古事記編纂1300年』

712年(和銅5年)に『古事記』が編纂されて、今年で1300年を迎えます。

現存する日本最古の歴史書と言われる『古事記』には、神代の時代から推古天皇の時代にいたるまでのさまざまな出来事が、神話・伝説などを含みながら記されています。

今月は『古事記』にまつわる資料や、日本の神話、神々、古代史など日本のルーツにふれる資料を集めて展示しています。

《さくらびあ展示》

『明治・大正時代の日本陶磁』

はつかいち美術ギャラリーで行われている「明治・大正の日本陶磁」の展覧会に合わせて、陶磁に関する資料を集めています。また、今月の図書館だより4ページ目にも特集を行っていますので、そちらもぜひご覧下さい。

《テーマ展示》

『おいしい和菓子』

6月16日は和菓子の日です。848年(嘉祥元年)6月16日、16個のお菓子を神前に供えて、疫病退散を願ったそうです。

和菓子の作り方、歴史、手土産などおいしい和菓子の本を展示しています。

《テーマ展示2》

『働くママを応援します』

6月23日～29日は、男女共同参画週間です。広島県では、「ママの就活はじめませんか？」をスローガンに、女性のための就活応援セミナーを開催しています。働く女性、これから働きたい女性に役立つ本を集めました。

展示期間：5月25日(金)～6月27日(水)

平清盛と厳島神社

平清盛は厳島神社と深い関わりがあったと言われていいます。史料に基づいて調べていくと、そのきっかけとなった出来事について、面白いエピソードが残されていましたので、今回はその紹介をしたいと思います。

清盛がまだ安芸国司だった時、高野山の塔を造る仕事にあたっていたところ、香染を着た僧が現れて、「日本国の大日如来は伊勢大神宮と安芸の厳島なり。早く厳島に奉仕すべし」と告げました。

その後、清盛が厳島を詣でると、今度は託宣を受けた巫女が「君は従一位太政大臣に至るべし」と言ったそうです。

これは『古事談』に載っているエピソードです。

また、これと似たようなエピソードが『平家物語』にも書かれています。

『古事談』と同じく高野山の塔の修理を終えた清盛の前に、老僧が出てきて、「厳島はないも同然に荒れ果てています。修理だけでもして下さるなら、あなたの

官位昇進は他に及ぶ者はいなくなるでしょう」と言って立ち去りました。

そして、清盛が厳島の修理を行い、お参りした夜の夢に、びんずら(髪を左右に分け、両耳のあたりで束ねた髪型)を結った天童が出てきて、「私は大明神の御使いだ。お前はこの剣を持って天下をしずめ、朝廷のお守りとなれ」と言って、小長刀を授けます。それから「ただし悪行をすれば、その栄華を子孫まで及ぼすことはできないだろう」と告げて去って行ったそうです。

これらのエピソードが本当かどうかは今となっては分かりませんが、平清盛が厳島神社の修理を行い、今日見られるような姿になったと現在では伝えられています。

応援してます！
平清盛



《参考文献》

- 「新日本古典文学大系41 古事談」佐竹昭広/ほか編集委員 岩波書店 918シ
- 「新編日本古典文学全集45 平家物語1」小学館 918シ

今月の新刊(一般書)

図書館には1カ月に約600冊の新刊が入ります。その一部を紹介します。

- 『人生を変える朝1分の習慣』 後藤勇人/著 あさ出版 159/コ ★
- 『千思万考 天之巻』 黒鉄ヒロシ/著 幻冬舎 281.0/ク
- 『孫正義 働く君たちへ』 「ソフトバンク新卒LIVE」編纂委員会/編 三笠書房 335.1/リ
- 『「子育て」支援ガイドブック』 横島洋志・中川美弥/著 中央経済社 336.4/ロ
- 『広島県の高齢者施設ガイド』 中国新聞社 369.2/ヒ
- 『散歩道の木と花』 金田洋一郎/著 講談社 470.3/カ
- 『知っていますか？ レビー小体型認知症』 小阪憲司/著 メディカ出版 493.7/コ
- 『知っておきたい放射線の基礎知識』 齋藤勝裕/著 ソフトバンククリエイティブ 539/サ
- 『免疫力をアップする、塩麹のおかず』 白沢卓二/医学監修 角川マガジズ 596/メ
- 『進化する強さ』 クルム伊達公子/著 ポプラ社 783.5/ク
- 『カーブのあゆみ』 中国新聞社/著 中国新聞社 783.7/カ
- 『“また会いたい”と言わせる話し方、伝え方』 福沢朗/著 講談社 809.4/フ
- 『日本のことを英語で話そう』 シーラ・クリフ/著 中経出版 837.8/ク
- 『いまを生きる覚悟』 曾根綾子・クライン孝子/著 致知出版社 914.6/リ
- 『上機嫌の才能』 田辺聖子/著 海竜社 917/タ ★
- 『ペトロ』 今野敏/著 中央公論新社 F/コ
- 『レディ・マドンナ』 小路幸也/著 集英社 F/シ
- 『死命』 薬丸岳/著 文芸春秋 F/ヤ
- 『太陽は動かない』 吉田修一/著 幻冬舎 F/ヤ ★





新刊

こどものほん

『あなた』

谷川俊太郎/文 長新太/絵 福音館書店 E/チ
わたしから見ると、おかあさんも、なくなったおばあちゃんも、ともだちのさっちゃんも、草木も動物も「あなた」。たくさんの「あなた」に出会って、わたしはわたしになる。いろいろな「あなた」に会うのが楽しみ。詩的な言葉とユーモラスな絵が、多くのつながりに気づかせてくれる。

『おっぱい』

まつおか たつひで/さく・え そうえん社 E/マ
「かあさん おなかがすいたよ」。ねこ、ぞう、カンガルーの赤ちゃんが、おっぱいがほしいと寄ってきて、「ちゅちゅ」「ごっくん」「むぐむぐ」と心地よい音をたてて飲みます。それを見守るお母さんのまなざしは愛情いっぱい。ページをめくる度に、ほのぼのと温かい気持ちになるしかけ絵本です。



その他の新刊

『ふるさと 60年一戦後の日本とわたしたちの歩み』道浦母都子/文 金斗鉉/絵 福音館書店 E/キ
『はまべには いしがいっぱい』いしはた/作 谷川俊太郎/訳 好学社 E/ル ※1979年パゴソ社刊の復刊。

モーリス・センダックをしのんで

アメリカの絵本作家モーリス・センダックが5月8日、脳卒中後の合併症のため83歳で亡くなりました。今月はその作品の中から絵本を中心に紹介します。

センダックの作品で真っ先に思い浮かぶものといえば、『かいじゅうたちのいるところ』ではないでしょうか。1963年に発表されたこの絵本は、米国で最も権威あるコルデコット賞を受賞し、これまで全世界で約2千万部、日本でも約100万部を売り上げたベストセラーです。2009年には映画化もされました。

センダックは、①『かいじゅうたちのいるところ』(1975年 ※()内は日本での初版出版年)、②『まよなかのだいどころ』(1982年)、③『まどのそとのそのまたむこう』(1983年)を“同じテーマの変型”の3部作と言っています。『かいじゅうたちのいるところ』の主人公マックスは、お母さんに叱られて寝室に閉じ込められますが、かいじゅうたちのいるところへ航海し、かいじゅうたちの王様となって思う存分楽しんだ後、再び慣れ親しんだ自分の寝室へと戻ります。次に『まよなかのだいどころ』の主人公ミッキーは、真夜中に騒がしい音で眠りを覚まされた途端に体が宙に浮き、たどり着いたパン屋の台所でミルクと間違えられて生地に混ぜられ焼かれそうになりますが、夜空を自由自在に飛び回りミルクを探して無事にケーキは完成！安心してベッドに戻り眠りにつきます。また、『まどのそとのそのまたむこう』では、赤ちゃんのおもいをさせられた主人公の少女アイダが、ゴブリンたちにさらわれた妹を取り戻そうとまどのそとの世界へ飛び出し、ゴブリンたちをうまく手なずけて、無事に妹と戻ってきます。このように3作は、“子どもたちが自分の中に湧き起こる怒りや恐怖、欲求不満などの感情をどのように克服するか”というテーマで描かれており、これはセンダックの創作上での永遠のテーマでもありました。

このほかセンダックの作品には、子どもたちのありのままの姿を描いた幼年童話があります。④『あなはほるもの おっこちるとこ』は、まさに子どものつづやきそのものを感じられる一冊ですし、⑤『ロージーちゃんのひみつ』、⑥『おふろばをそらいろにぬりたいな』、⑦『こぐまのくまくん』シリーズは、子どもならではの真つすぐな言動と感性に、同年代の子どもたちは共感し、大人は思わずずっと微笑んでしまうことでしょう。

6月27日まで児童新刊絵本コーナー横に作品を展示していますので、是非ご覧ください。

- ①② モーリス・センダック/さく じんぐうてるお/やく 富山房 E/セ
- ③ モーリス・センダック/さく・え わきあきこ/やく 福音館書店 E/セ
- ④ クラウス/文 センダック/絵 わたなべしげお/訳 岩波書店 908/イ
- ⑤ モーリス・センダック/さく・え なかむらたえこ/やく 偕成社 933/セ
- ⑥ クラウス/文 センダック/絵 大岡信/訳 岩波書店 908/イ
- ⑦ E・H・ミナリック/ぶん モーリス・センダック/え まつおかきょうこ/やく 福音館書店 933/ミ

参考資料(※は児童研究書コーナー) 雑誌「MOE」2010年1月号

※『センダックの世界』セルマ・G・レインズ/著 渡辺茂男/訳 岩波書店 L726.5/セ

※『センダックの絵本論』モーリス・センダック/著 脇明子・島多代/訳 岩波書店 726.5/セ

《さくらびあ展示 特別企画》

明治・大正時代の日本陶磁

—産業と工芸美術—

はつかいち美術ギャラリー

開催日：5月19日(土)～7月1日(日)
開館時間：10時～18時(入館は17時30分まで)
※月曜日休館日
観覧料：一般700円 大学生600円
※高校生以下無料

はつかいち市民図書館

美術ギャラリーで行われる展覧会に合わせて、陶磁に関する資料を集めて展示しています。
展示場所：さくらびあ展示コーナー
(小説のコーナーのCの棚)
展示期間：5月25日(金)～6月27日(水)

はつかいち美術ギャラリーでは、現在「明治・大正時代の日本陶磁—産業と工芸美術—」の展覧会を行っています。この展覧会に合わせて、はつかいち市民図書館でもさくらびあ展示のコーナーで陶磁に関する資料を集めて展示しています。

今月は特別にはつかいち美術ギャラリーの学芸員山田博規さんに、今回の展覧会の魅力を語っていただきました。

今回の展覧会には、明治・大正時代に作られた日本の陶磁器約130点を出品しています。中でも、一番の見どころは、万国博覧会に出品された作品を含め、明治時代前期に輸出された里帰り品たちです。



巨大な円卓やワイン壺に大皿、細密な絵付けの作品やリアルな鳥や植物が貼付けられた花瓶など欧米人の度肝を抜き、熱狂させた作品たちを、間近に見ることができます。

この展覧会は全国4会場を巡回しますが、その最初の開催が廿日市市となっています。全国に先駆けてこれらの作品が見られる、絶好の機会です。お見逃しなく！！

宮川香山(初代) 高浮彫牡丹二眠猫覚醒蓋付水指(部分) 明治時代前期

6月の図書館カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
					1 ◎	2
3	4	5	6	7	8	9 ★
10	11	12	13	14	15 ◎	16
17	18	19	20	21	22	23 ★
24	25	26	27	28 休館	29	30

◎ちいさいこのためのおはなし会

【対象】乳幼児

【時間】1回目 11時～

2回目 11時30分～

※相談窓口で整理券をお渡ししています。
カウンターにお問い合わせください。

★パパが読むおはなし会

【対象】幼児～小学校低学年

【時間】11時～

★おはなし会

【対象】幼児～小学校低学年

【時間】11時～



※場所はいずれも図書館会議室です。